



当院で設置している「医療連携室」について活動内容をいくつか紹介させていただきます。

『病診連携に関すること』

当院を受診された患者様がスムーズに他の医療機関への受診や入院が出来るよう、また他の医療機関から当院への入院などの受け入れがスムーズにできるよう、それぞれの病院の連携室同士が窓口となり、受け入れまでの必要な連絡等を行っております。また、その際に発生する紹介状や返書などの書面管理も行っています。

『退院調整』

現在、地域包括ケア病床の退院調整役として、ご家族、ケアマネージャーさん、各施設などと

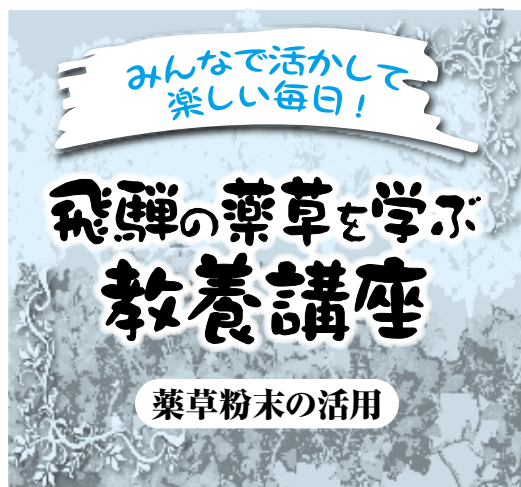
連絡を取りながら活動しています。

『地域連携機能・その他』

当院通院中の患者様の介護認定のための主治医意見書受け取り窓口としての機能、包括支援センター、ケアマネージャーさん、訪問看護師さん、各施設等の様々な部門の方々と連絡を取りながら、必要な医療や、介護、各種サービスにつながるための連絡窓口としての機能を持っています。

これらを通し、地域医療を支える病院としての役割が果たせるよう様々な内・外の部門の方々と連携を取りながら、つないでいく窓口として活動しています。

このように受診や医療や介護などの相談窓口として、当院に通院・入院中の患者様やそのご家族様を対象に窓口を設け活動しています。平日の9時から17時までが対応可能な時間となっておりますので、お気軽にお声かけ下さい。



薬草粉末の活用

たくさん薬草採れていますか？採れた薬草は、うまく活用し体に取り入れることが大切です。

採れた薬草はお茶にしたり、お酒に漬けたりとさまざまな活用ができますね。

採った薬草の長期保存がしやすく、毎日手軽に取り入れようと思った場合にオススメなのが乾燥粉末です。

これは葉っぱや花、茎やツルなどで使えます。

手順としては、採った薬草を天日や日陰、または機械などで乾燥します。花や葉っぱは乾燥した時点でお茶として活用できますね。

そこから更にコーヒーマルなどを使って微粉末を作りますが、粉にした場合、最初の生の状態から考えると約10分の1の体積になってしまいます。「あんなにたくさん採って来たのにこんなに少しくなるの!？」と驚くほどです。

でも乾燥粉末にすると保管がしやすい以外に携帯性に優れますし、そのまま飲んだり、食材に混ぜたり、ハチミツで練って丸めたりと

様々な場面で活用できます。何より乾燥粉末は薬草を丸ごと全て体に取り入れることができます。

うまく粉末にするためには十分乾燥させることがポイントです。

微妙に水分が残っていると、粒が細かくならない、サラサラにならないといった状態になります。

葉っぱなら手でぎって少し力を加えるとクシャツとなる位に乾燥させるのがいいでしょう。

できた粉は瓶などに入れ、乾燥剤を1、2個入れておきましょう。長く保存しているなら時々乾燥剤を取り替える必要があります。

せっかく採れた薬草。うまく加工して良い状態を維持し、手軽に体に取り入れやすくしてみてください。

